

## 平成30年度 みきっ子未来応援協議会 第1回子育て環境部会 議事録

1 日時・場所 平成30年11月29日(木) 19:00~21:00  
市役所5階 中会議室

### 2 出席者

<委員 8名> 【部会長】 黒井一寿  
※敬称略 【委員】 八木和子、本岡加代子、岡本典子、吉永芳枝、  
神吉知子、岸本久雄、田中啓規

<事務局 9名>

【健康福祉部】 岩崎国彦(部長)  
【健康福祉部】 [健康増進課] 橋本和美(課長)  
【教育振興部】 [教育・保育課] 正心均(課長)  
[生涯学習課] 近藤豊(課長)  
【健康福祉部】 [子育て支援課] 井上典子(課長)  
濱口明子(係長)  
森本勝也(係長)  
藤田崇史(係長)  
高崎華世(主任)

### 3 開会

#### 4 あいさつ

岩崎健康福祉部長

皆さんこんばんは。本当に朝夕寒い時期がきました。平成25年12月に実施した第一期三木市子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケートから5年たち、今度は第二期計画策定のためのアンケートを実施するにあたり、子育て環境部会の方に、アンケートの内容について答える側の方の思いや、項目についてご意見をいただきたいと思います。

前回のアンケートは幼保一元化に関する部分が多く出ておりましたが、今回のアンケートにつきましては、国の示す基準に基づいて、就学前と小学生のいるご家族の方の思いをしっかりととらえたいと思いますので、今日は忌憚のない意見をお聞かせいただきたいと思います。本日は、よろしくお願いいたします。

#### 5 委員紹介

委員、事務局自己紹介

#### 6 議事

(1) 第二期三木市子ども・子育て支援事業計画策定にかかるアンケート調査の質問項目について

部会長 「第二期三木市子ども・子育て支援事業計画策定にかかるアンケート調査の質問

項目」につきまして事務局より説明していただきます。

事務局 最初に子ども・子育て支援事業計画のアンケート調査について説明します。

「子ども・子育て支援法」に基づき平成27年度に三木市子ども・子育て支援事業計画を策定いたしました。この計画は、5年を1期とするもので、今回は、第二期を策定するために、地域子ども子育て支援の現在の利用状況を把握し、三木市の実状を計画に盛り込むという目的で調査を実施するものでございます。

本日は、調査票の内容を見てご意見をいただきたいと考えています。そのうえで、内容が固まりましたら、アンケート調査の調査票を完成し、1月に発送で2月に回収、3月に第2回全体会でニーズ調査の結果を報告し、来年度にアンケート調査の結果から、量の見込みと計画内容を検討して第二期の計画を策定するという予定です。

続いて、アンケート調査の項目構成の概要について、説明します。

資料「子ども・子育て支援制度 なるほどブック すくすくジャパン」をご覧ください。このパンフレットでは、国の子ども・子育て支援新制度の説明が記載されています。子ども・子育て支援新制度では、保育事業と地域子ども・子育て支援事業の2つの事業を、市町村主体事業として実施するよう定められています。アンケート項目は、この事業に沿って作られています。

アンケート調査の各項目については、三木市が計画策定支援を委託している事業者の株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所より説明をします。

事業者 このアンケートは、三木市で、保育所・認定こども園・幼稚園に行きたいと思う人や、児童センター・吉川児童館やアフタースクールを利用したいと思う人はどれだけいるのかを調査し、今後の見通しを立てて、改正の体制をつくるための計画作りに活用されます。アンケートだけで判断するものではありませんが、アンケートにより、子育て支援のサービスを利用したいという声はどれだけあるのかというのを把握した上で、今後のニーズの見通しをしていきます。

今回お示しした調査票案で、赤字の部分は、国が示すアンケートのひな型のうち、できるだけ全国の市町村で共通で聞いて下さいというように国が示している部分です。質問項目を変えてはいけないという事ではないので、地域によって表現がわかりにくい場合は、内容を補う必要があります。例えば、放課後児童クラブ、学童保育という言葉を使うよりも、アフタースクールと言った方が三木市の市民に伝わりやすければ、言葉を変えていきます。

赤字の箇所ですらに黄色のマーカーのある項目は、次の第二期計画で、サービスのニーズがどの程度あるのかを算定するために必要な項目になります。削れない項目ということになります。

では、就学前児童の保護者を対象とした調査票から説明します。

1 ページは、対応するお子さんの年齢、学校区などアンケートの回答者の基本事項です。2 ページの子育ての状況については、直接ニーズ量に使う質問ではありませんが、普段子どもをみてもらえる人がどれぐらいいるのか、反対にみてもらえない人がどれぐらいかを問うもので、今後、三木市として子育て支援をしていく上で考慮して

いかなければいけない項目です。続いて3ページにかけては、保護者の就労状況について聞きます。親が共働きかどうか、何時間働いているのかにより、保育のニーズの水準を調べます。さらに、実際の幼稚園・こども園・保育所の利用状況と、それは三木市内かどうかを聞いています。

4ページの緑の文字の部分は、三木市独自の質問項目で、保育料の無償化についての質問です。平成29年度から国に先がけて三木市が保育料を無償化していることについて、ほとんどの市民が知っているという結果であれば、予定されている消費税増税に伴う国の無償化の影響というのは、今後それほど考えなくてもよいこととなります。

5ページ以降は、土曜・休日の教育・保育、病気の際の病児・病後児保育、不定期の利用となる一時預かりなどの事業や、児童館の利用についての質問です。10ページでは、就学後の放課後の過ごし方の予定、特にアフタースクールの利用がどの程度あるのかについて聞いています。次に12ページにかけては、全国一律の質問項目として、育児休業等の制度の認知度とその利用程度について聞いています。最後に、13ページから15ページは、子育てに関する悩みや、市の子育て施策についてのご意見をいただく項目となっています。

これらの質問項目は、国のひな型に準じていますが、全部を盛り込むと20ページ以上となり、回答者の負担が大きく、回答率が下がってしまうため、ニーズ量を計算するのに必須となる項目とできれば聞いた方がよい項目に絞って作成しました。

実際、5年前にアンケートをされた自治体の回収率は4割台のところが多かったです。三木市は、就学前の回収率が6割と高く、要因は、幼保一体化の項目を中心に独自のアンケートを作られて、16ページで納まっていることが考えられます。ですので、質問を加えるとしたら、別の質問を削るというように調整したほうがいいと思います。

小学生のアンケートでは、家庭の基本事項は就学前と同じ質問があり、アフタースクールの利用希望が大きな質問項目になっています。その後は病児・病後児保育、一時預かりや学校教育について質問が続きます。9ページには、就学前と共通で、子育てについて悩んでいることをうかがいます。

事務局 委員の皆様にはアンケート素案を事前送付した後に、事務局の修正案を本日の追加資料として配布しています。資料が二重になりまして、また、修正箇所が多く、見づらい資料となり大変申し訳ございません。

この資料も、修正案となっておりますので、この案につきましても委員の皆様にご意見をいただけたらと思います。

部会長 ありがとうございます。各委員の方からご意見をよろしくお願いいたします。

委員 どちらのアンケートにも「住み続けたいと思うか」という質問があるが、なぜというのを聞かなくていいのか、答える側としても書きたいし、聞きたいところです。

事務局 子育て環境をメインとして聞きたいので、子育てに関する意見を引き出したいので、「住み続けて子育てがしたいと思いますか」という質問にするなど、修正を検討したい。

委員 病児・病後児保育を利用したいかどうかというより、その存在すら知らなかった。知らない人が多い可能性があると思った。

事務局 病児・病後児についてももう少し説明を入れることを検討したい。

委員 アフタースクールを何年生まで利用したいかについて、4・5・6に○をつけるようになってきているが、利用している人から聞いた話で、1～2年生は預けるけれど、3年生くらいならもういいかなという人もいる。4～6に絞らなくてもいいのではないか。

事務局 アフタースクールが何年生までかを知らない人もあり、過去は3年生までという運用だったのでその周知も含めている。そのあたりの説明も検討したい。

委員 事務局で修正した素案を渡してもらえなかったのか。修正を書き込んでいる間に説明が進んでしまって、時間がもったいない。

事務局 申し訳ございません。基本は素案を見ていただき、大きく変更という部分は修正案をご覧ください。

委員 現在、児童センターは日曜日も開館しているので、前回のアンケートがそのままなのかと思った。そういうことも含めてチェックしていただければと思った。

国のひな型は20ページくらいあったということだが、それを削ったのは誰の判断か。回答者にとっては答えたかった質問というものもあったのではないか。

事業者 質問の項目として大きく削ったものはない。国のひな型では、就労時間について何時から何時までというように詳しく質問しながら、ニーズ量の推計にはそれらは利用しないことになっていた。国のひな型は、すべての自治体に適用可能な形で作成されており、お渡ししている素案は、三木市の状況に合わせて、必要な質問のみに簡素化したため、ページ数が少なくなっている。

委員 就学前の質問9で、放課後に利用したいサービスの内容が就学前と就学後で変わっているが、違いがあると比べにくいと思うが、どうか。

事務局 今後の修正案で統一する。

委員 虐待のことや程度についての項目で、しんどい状況にある母親が読んだときに質問

がきついのではないかと思う。具体性を持たせるのがいいのか、はい、いいえ、わからないとぼやかすのもいいのか。

事務局 市役所では児童虐待の対応もしており、防止しなければならない。具体的に触れると傷つけられるだろうかという心配と、その行為はよくないですという意識をしていただくことも必要で、どうだろうか。

委員 自分がもし1番の「ときどき、たたいたり、どなったりするなど、つらくあたってしまうことがある」にあたると思ったときに、そこに○をする勇氣があるかどうか。ここに書かれてあると、やってはいけないことをしていると思う。私も子どもにつらくあたってしまうことがあるし、3番の「ときどき、つらくあたってしまいそうな気持ちになることがあるが、人に相談するなどして解消している」のような対応をしている場合もある。読んで傷ついたら自覚があるということだし、傷つくかどうかはその人の問題で、答えてくれたら大事なデータになると思うので、傷つくからと排除するよりはあった方がよいのではないかという気がする。ただし、答えるのは勇氣がいる。

委員 そういうことに気付けられるのが大事だと思う。

委員 気付きというのは今の時代は大事なことだと思う。書く勇氣がどうこうというより、そういう気付きを投げかける問題になっているのでよいと思う。

部会長 皆様のご意見からすると、児童虐待防止を啓発する材料として残すということですね。

委員 児童虐待は防がなければならないことで、とても大事なことだと思う。事件も起きていると思えば、残すべき。

事務局 選択肢は最もあてはまるもの1つだけを選ぶ形式になっているが、複数選べるようにした方がよいだろうか。

委員 複数の方が1つだけ選ぶより答えやすいと思う。

事務局 「よくあった」、「少しあった」というように、1つずつ程度を尋ねる質問の仕方も考えられる。事務局で検討したい。

委員 事業内保育所とか、ファミリーサポートセンターなどは田舎の方ではないこともある。また、里親制度についてもアンケートで伝えてもらいたい。

事務局 ファミリーサポートセンターや職場内保育所等の用語について、国のひな型には

注釈が入っていたので注釈を入れます。認定こども園という言葉も知らないかもしれないし、小規模保育施設と事業所内保育施設、職場内託児所の違いなどになると区別がつかないかもしれないし、ファミリーサポートセンターは事業名だが、そういう建物があると思う人もいるかもしれない。そのあたりも含めて用語については、少し解説を入れるように検討したい。

里親については、利用するかしないかという問いとしてここに入れるのは難しい。

部会長 用語の解説は大事だと思う。理解していただくことでアンケートの質問に答えやすくなる。

委員 問1 1-1の選択で公立認定こども園から私立、事業所内、などすべての施設が三木市内にあるのか。

事務局 事業所内保育所は市が認可しているもの、職場内託児所は福利厚生の一環のもの。注釈を入れるなどしておきたい。三木市内になくても市外で利用している人もいるので選択肢にはしたい。

委員 修正案の問2 4に放課後子ども教室について、三木市では未実施である。放課後子ども教室を利用したいかどうかという質問だが、利用したいという声が大きかったときに開設するあてはあるのか。

事務局 放課後子ども教室事業の運営自体が、ボランティアや地域の方主体で制度設計されている。そうした団体やサークルがあるかどうかは現在では未実施ということもありわからないのが現状。ニーズがあるところで実施できるかどうか検討していく資料にしたいという質問である。基本的には、ボランティアで運営ということであり、ボランティアでも責任が生じてくることや、会場の問題などがあって、協力してもらえる団体やグループがあるかどうかについてはハードルが高いと思う。

部会長 ニーズが多ければ今後の事業展開を考える資料としたいということですね。

元気な子どもについての質問が多いが、発達に課題のある子どもの保護者がこのアンケートで答えるにあたり、答えにくくないだろうか。

委員 幅広く配るものなので、そのあたりの配慮をどの程度含める必要があるのかと思う。就学前の14ページで問2 8に「障がいのある子どもが・・・」という項目があり、保護者が意見として言えるのでよかったと考えている。

入れるべきかどうか悩むのは、「学校教育に求めること」について、障がいのある子どもが医療的なケアが必要で地域の学校に通えない、看護師がいなくて、知的には問題が無くても支援学校しか受け入れられないという問題です。「その他」で書けばいいということだが、そういう子どもたちが行きたい学校に行けることを望むという意見表明をしやすければよいのではと思っている。

事務局 例えば放課後等デイサービスや療育施設等を、放課後事業や就学前教育・保育施設の選択肢に加えることも考えられる。

委員 就学前については療育施設も選択肢にあってもいいと思う。放課後は放課後等デイサービスに通っている子どもも多いので、項目としてあれば一定数の回答はあるのではないか。

事務局 選択肢「その他」で書いてもらえるかどうかという心配もあった。選択肢として丸を付けてもらう方がよいただろうか。

委員 この質問で放課後等デイサービスをここに書くものだとは思えなかったので、通っているのに書こうと思わない人はいると思う。

事務局 タイムケアや放課後等デイサービスなどを合わせた表現として加えてもよいかと考えている。障害福祉課とすり合わせしたい。

委員 小学生の放課後等デイサービスは施設が多くて、人数対施設の数は満たしていると思う。足りないのは就学前・就園前で、行くところがないと聞いている。少しでも早く療育を始めたくて、市外の幼稚園に通っている人もあり、就園就学前の親に、こういう場所にも行けるということをアンケートで教えてもらえれば周知になり、その結果、施設も増やしてもらえればよいと思うので、追加をお願いしたい。

事務局 市民病院の跡地に「にじいろ」という施設がありまして、午前中に就学前の子どもさんの療育をしているが、十分かどうかというご指摘のような問題がある。また「にじいろ」は、こども園等の施設に通っている子どもに対するフォローとして、園へ出て行って保育教諭に療育の指導もしている。障がいがある就学前の子どもをまとめて療育をするというのは、施設の的にも人数的にも難しい。三木市の療育は、こども園等の施設でのフォローと専門職員が療育する「にじいろ」の二本立てで並行させているのが現状です。

部会長 このアンケートではみなさんの要望を全て満たすのは難しいかもしれないが、市役所側も違った形で考えてほしい。

今日の1つ目の協議事項については、およそ意見を頂戴できたと思う。今日の議論を事務局で話し合ってください。

それでは、その他の項目について、事務局から議題はあるか。

事務局 今日、ご提案いただいた内容を庁内の関係各機関と協議しまして、アンケート調査案の訂正をしていきます。

今後につきましては、修正内容により必要に応じて第2回子育て環境部会を開催す

るということではいかがでしょうか。

部会長 第2回開催につきましては、事務局と私が相談させていただいて、開催するかどうか決めたいと思いますが、一任していただけますでしょうか。(一同賛成)

## 7 閉会

井上課長

皆さんの思いを受け止めたアンケートの作成内容にしていきたいと思いますのでよろしくお願いたします。本日は、本当に活発なご意見をありがとうございました。